

【問8】 次の表から確実にいえるのはどれか。 【地上19年度】 331_3*

土地取引面積の圏域別対前年増加率の推移

[単位：%]

圏域	平成11年	12	13	14	15
東京圏	22.1	△ 12.8	13.4	△ 8.6	9.4
大阪圏	3.1	△ 6.1	6.5	7.6	△ 1.4
名古屋圏	△ 2.0	△ 10.4	7.0	28.3	△ 18.6
地方圏	8.8	△ 2.5	△ 15.9	0.4	7.1
全国計	8.9	△ 3.4	△ 13.0	1.0	5.9

[注] 1 △はマイナスを示す。

2 地域区分は、以下による。東京圏：埼玉県，千葉県，東京都，神奈川県。大阪圏：大阪府，京都府，兵庫県。名古屋圏：愛知県，三重県。地方圏：上記以外の地域。

- 1 土地取引面積の全国計の平成11年に対する平成13年の減少率は、地方圏の土地取引面積のそれより小さい。
- 2 平成11年の土地取引面積の全国計の対前年増加面積は、平成14年のその5倍を下回っている。
- 3 平成12年において、東京圏の土地取引面積の対前年減少面積は、地方圏の土地取引面積のその5倍を上回っている。
- 4 平成12年から平成15年までの各年のうち、名古屋圏の土地取引面積が最も少ないのは、平成15年である。
- 5 平成12年の大阪圏の土地取引面積を100としたときの平成15年のその指数は、120を上回っている。

【解説】 肢1の「大きい」を「小さい」に、肢5の「下回っている」を「上回っている」に変更
 その他は、テキスト参照

資料解釈における解答のための参考

- 1 表やグラフが何を表しているか確認
 実数，指数，増加量，増加率，変化率，対前年，基準年，構成比
- 2 消去法を基準に検討する。
 指数など項目間の比較が無意味な場合，相対数値で絶対数が出せない場合
- 3 概算であたりを付ける。
 2桁で概算し，絞られた値を3桁で計算
- 4 選択肢1から順番でなく，感覚を大事に順序立てる。
 正解の確率が高い選択肢は断言し難いが，資料解釈では，比較的3，5が多い
- 5 大小の比較は，分数で比較するのが困難な場合のみ，小数で比較
 分数では，分子が大きければ大きくなり，小さければ小さくなる。
 分母が大きくなれば小さくなり，小さくなれば大きくなる。(当たり前のことを確認)
- 6 大きな数字では，簡単な数字で検討する。
 数字が，175,552円で与えられた場合，千円をベースとし，176円で検討する。
 36万人とあっても「万人」を無視しても答は出せる。ただし，問全体で無視すること